

「にじさんじ」と「ホロライブ」 -スパチャ総額の差はどこにあるのか-

本論文では、Vtuber 事務所大手と呼ばれる「にじさんじ」と「ホロライブ」。両事務所は同じように活躍しているが、スパチャの総額に大きく差が開いていた。そこで、2020 年 Vtuber スパチャランキングで上位になった「にじさんじ」所属の配信者 3 名と「ホロライブ」所属の 3 名に注目した。世界中の YouTube チャンネルを分析可能な PLAYBPARD というサイトを活用し、配信頻度、配信内容、動画の再生数、配信の同時接続数、配信の特徴、また、2020 年以降の両事務所の対外展開からスパチャ総額の差を検討する。

にじさんじの強みは、その規模である。100 名規模の Vtuber が所属するグループは他になく、箱内でのコラボや大型企画頻繁に行うことが可能である。しかし、人数が多いことによって、同じ「にじさんじ」内でも差が生まれている。視聴者は分散し、より人気のあるライバーの元へ流れていく。イベントや公式番組で顔となるライバーのところには多く人が集まるが、そうでない場合、数 100 単位でしか人が集まらないケースが多い。また「ホロライブ」と比べ海外視聴者が少ない。一方、ホロライブが成功している点は、やはり海外展開がうまくいったことだろう。にじさんじではあまり見ない英語のコメントも、ホロライブでならよく見かけ、スーパーチャットも海外から飛んでくることもある。配信者とアイドルという明確な路線があったことも視聴者をうまく取り込めた要因だろう。積極的に海外グループと交流することが「にじさんじ」にとっては必要なことで、それをしなければ、「ホロライブ」には勝てないだろう。

本論文執筆開始当初と考えが変わり Vtuber 界の発展には両事務所の対立構造は良くないとわかった。両事務所に所属する Vtuber 達が、よりよい形で世間に認知され、活動の幅を広げていくことが、今後の Vtuber 界を大きくすることにつながるはずだ。「にじさんじ」はその人数を活かした企画力で、「ホロライブ」は新しいアイドルとして、Vtuber の大手事務所に所属する者としてこれからも活動を続けて行ってほしい。筆者の推しは、異界の扉からやってくる恐ろしい悪魔「でびでび・でびる」様だ。彼はにじさんじオフィシャルストアで人形が発売されるほどの人気ライバーである。独特のキャラクターで、にじさんじ以外との交流も深い。Vtuber の第一歩は「でびでび・でびる」からがいいだろう。